

口は健康のもと Vol.212

歯のレントゲン写真で骨粗鬆症がわかる

私たちの体を支える骨の大部分はヒドロキシアパタイトというカルシウム、リンならびに水素の化合物でできています。ヒドロキシアパタイトは骨の外側にある皮質骨では板のように並んでおり、骨の中にある海綿骨ではヒドロキシアパタイトを作る骨髄と骨髄の間にあります。このヒドロキシアパタイトが少なくなり、海綿骨や皮質骨から失われて骨がスカスカになる病気が骨粗鬆症です。原因として多くのことが挙げられますが、骨を作る細胞（骨芽細胞）に変化が起きて、ヒドロキシアパタイトの吸収と骨を作る能力がだんだん衰えてくることが影響していると言われております。最近の研究から歯のレントゲン写真であるパノラマ写真で、下あごの小臼歯あたりにある骨の幅を計測することで骨粗鬆症の可能性が高いかどうかを診断する方法が見出されました。骨粗鬆症の治療をしないと骨折をしやすくなり、寝たきりになる可能性が高くなります。

骨粗鬆症と日常生活との関係に興味のある方はかかりつけの歯医者さんにお尋ねください。



奥羽大学歯学部附属病院

放射線科 教授 原田 卓哉